

## (7) あらゆる暴力の根絶について

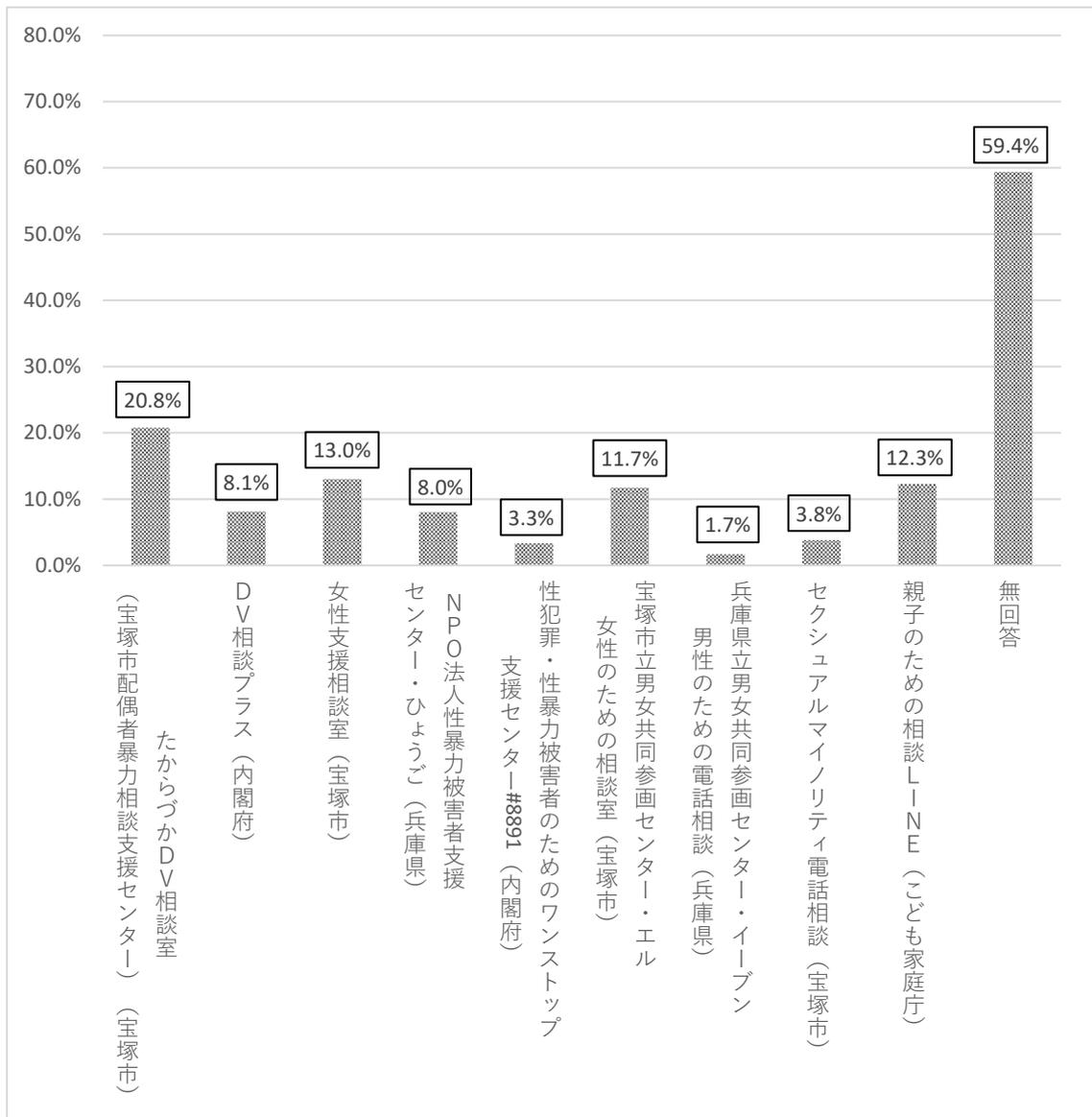
問 16 あなたは、次の相談窓口で、知っているものはありますか。知っているものすべてに○をつけてください。

各種相談窓口の認知度については、「無回答」が最も多く 59.4%となっている。設問が「知っているもの」を選択する形式であったため、「無回答」の中には、回答をしていない人に加えて、「全ての相談窓口を知らない」という人も含まれることに注意したい。

最も認知度が高かったのは、「たからづかDV相談室（宝塚市配偶者暴力相談支援センター）（宝塚市）」で 20.8%となっている。

一方、最も認知度が低かったのは、「兵庫県立男女共同参画センター・イーブン 男性のための電話相談（兵庫県）」で 1.7%となっている。

図 17 各種相談窓口の認知度 (n=1,083)



## 性別/年齢別

性別で見ると、「全ての相談窓口を知らない」という人も含まれると考える「無回答」は女性で50.0%、男性で72.2%となり、男性の方が22.2ポイント高い。

また、一部を除く項目において、男性より女性の方が各種相談窓口の認知度は高い。女性より男性の方が、認知度が高い項目は「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター #8891（内閣府）」と「兵庫県立男女共同参画センター・イーブン 男性のための電話相談（兵庫県）」となっている。

年齢別で見ると、「無回答」は最も高い「10代」で7割、他年齢でも4~6割程度となっている。

「たからづか DV 相談室（宝塚市配偶者暴力相談支援センター）（宝塚市）」は「30代」の認知度が他年齢と比べて最も高く、「女性支援相談室（宝塚市）」は「20代」「60代」が高い結果となっている。

「兵庫県立男女共同参画センター・イーブン 男性のための電話相談（兵庫県）」の認知度は全ての年齢層において低く、10代~30代では0.0%となっており、40代以降においても1.3%~2.3%となっている。

「親子のための相談 LINE（こども家庭庁）」の認知度は20代~40代が他年齢と比較して高い傾向にある。

表7【性別/年齢別】各種相談窓口の認知度

[上段:実数、下段:%]

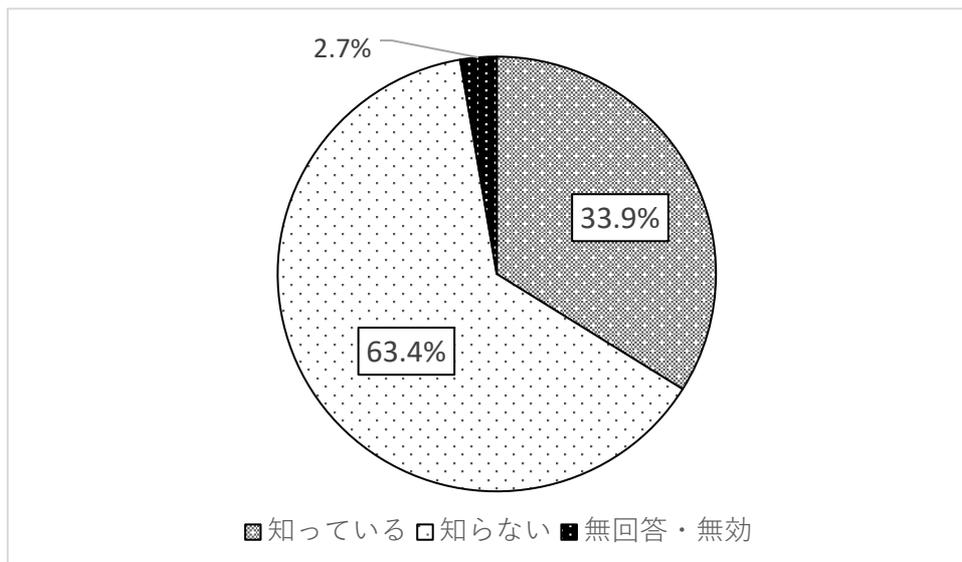
		たからづかDV相談室 (宝塚市配偶者暴力相談支援 センター) (宝塚市)	DV相談プラス (内閣府)	女性支援相談室 (宝塚市)	NPO法人性暴力被害者支援 センター・ひょうご (兵庫県)	性犯罪・性暴力被害者のため のワンストップ支援センター #8891 (内閣府)	宝塚市立男女共同参画セン ター・エル 談室 (宝塚市)	兵庫県立男女共同参画セン ター・イーブン の電話相談 (兵庫県)	セクシュアルマイノリティ 電話相談 (宝塚市)	親子のための相談LINE (こども家庭庁)	無回答
性別	女性 (n=628)	164 26.1%	57 9.1%	116 18.5%	62 9.9%	20 3.2%	101 16.1%	5 0.8%	28 4.5%	93 14.8%	314 50.0%
	男性 (n=454)	61 13.4%	31 6.8%	25 5.5%	25 5.5%	16 3.5%	26 5.7%	13 2.9%	13 2.9%	40 8.8%	328 72.2%
年齢別	10代 (n=9)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 77.8%
	20代 (n=50)	12 24.0%	6 12.0%	8 16.0%	5 10.0%	2 4.0%	3 6.0%	0 0.0%	3 6.0%	11 22.0%	26 52.0%
	30代 (n=66)	23 34.8%	8 12.1%	7 10.6%	4 6.1%	3 4.5%	2 3.0%	0 0.0%	4 6.1%	12 18.2%	30 45.5%
	40代 (n=156)	34 21.8%	12 7.7%	12 7.7%	11 7.1%	7 4.5%	11 7.1%	2 1.3%	4 2.6%	30 19.2%	97 62.2%
	50代 (n=219)	42 19.2%	20 9.1%	29 13.2%	17 7.8%	7 3.2%	28 12.8%	5 2.3%	8 3.7%	34 15.5%	137 62.6%
	60代 (n=203)	46 22.7%	27 13.3%	32 15.8%	20 9.9%	10 4.9%	29 14.3%	4 2.0%	8 3.9%	20 9.9%	112 55.2%
	70代以上 (n=380)	68 17.9%	15 3.9%	53 13.9%	29 7.6%	7 1.8%	53 13.9%	7 1.8%	14 3.7%	26 6.8%	234 61.6%

※「無回答」を除いて割合が最も高い項目に着色

問 17 あなたは、デートDVを知っていますか。

デート DV を「知っている人」は 33.9%、「知らない人」は 63.4%となり、「知らない人」が半数以上を占める結果となっている。

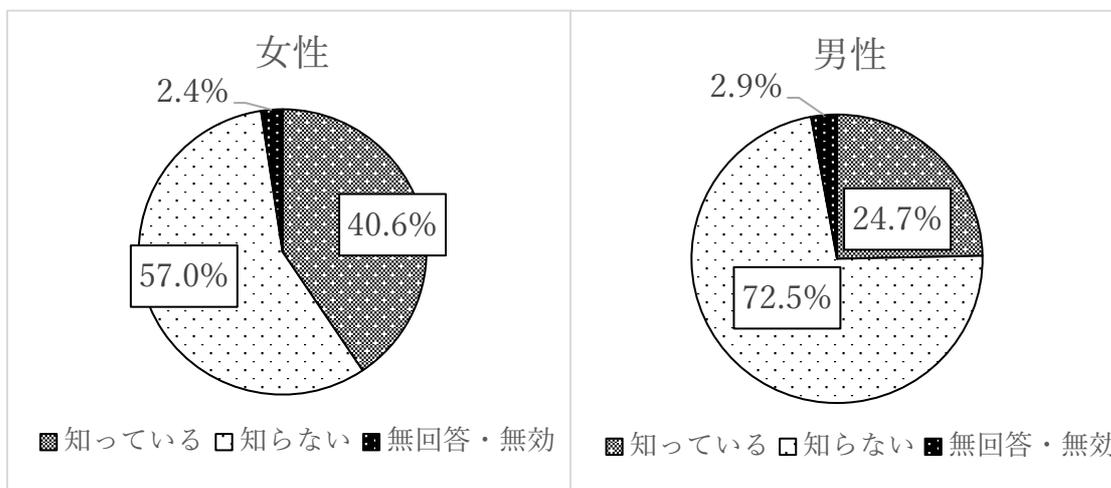
図 18-1 デート DV の認知 (n=1,083)



性別

性別でみると、デート DV を「知っている」割合は、女性が 40.6%であるのに対し、男性は 24.7%という結果になっている。デート DV の認知率は男性より女性の方が高いことが示されている。

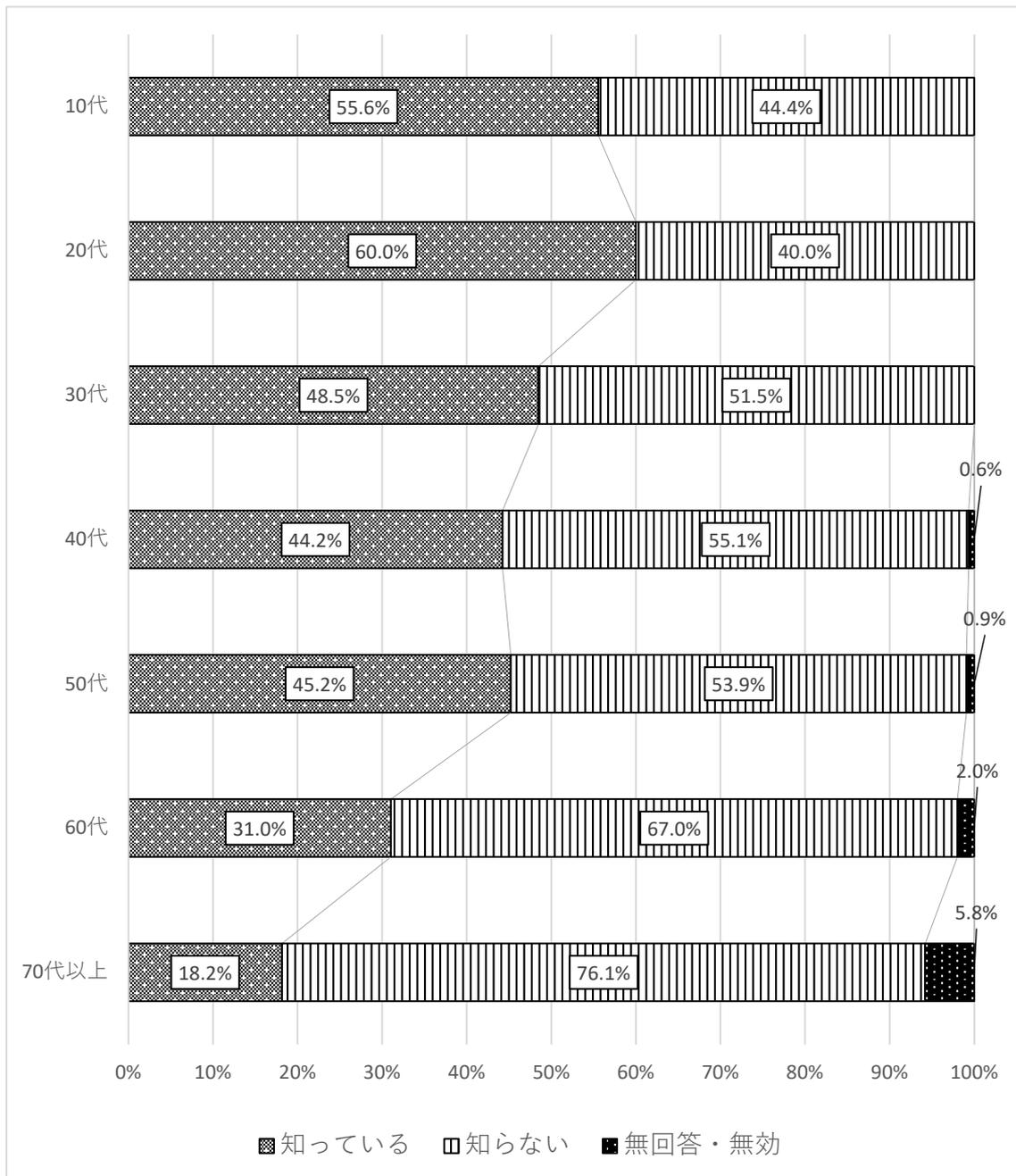
図 18-2 【性別】デート DV の認知 (女性 n=628,男性 n=454)



### 年齢別

年齢別でみると、「10代」「20代」の認知率は半数を超える一方で、30代以降になると半数を下回り、認知率が減少していく傾向がみられる。特に「70代以上」になると、認知率は18.2%まで低下している。

図 18-3 【年齢別】デートDVの認知  
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,  
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)

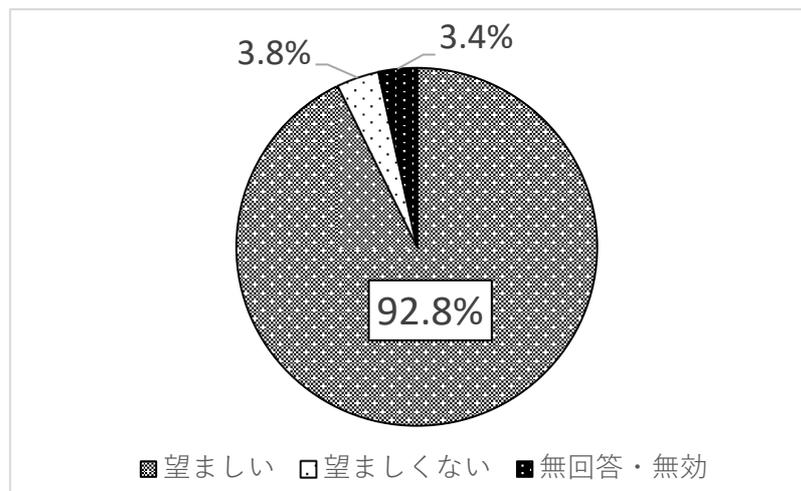


## (8) 仕事と生活の調和について

問 18 あなたは、男性が家事、育児、介護等に主体的に参画することは望ましいと思いますか。

男性が家事、育児、介護等に主体的に参画することについて、「望ましい」と答えた人は 92.8% となっている。一方、「望ましくない」と答えた人は 3.8% となっている。

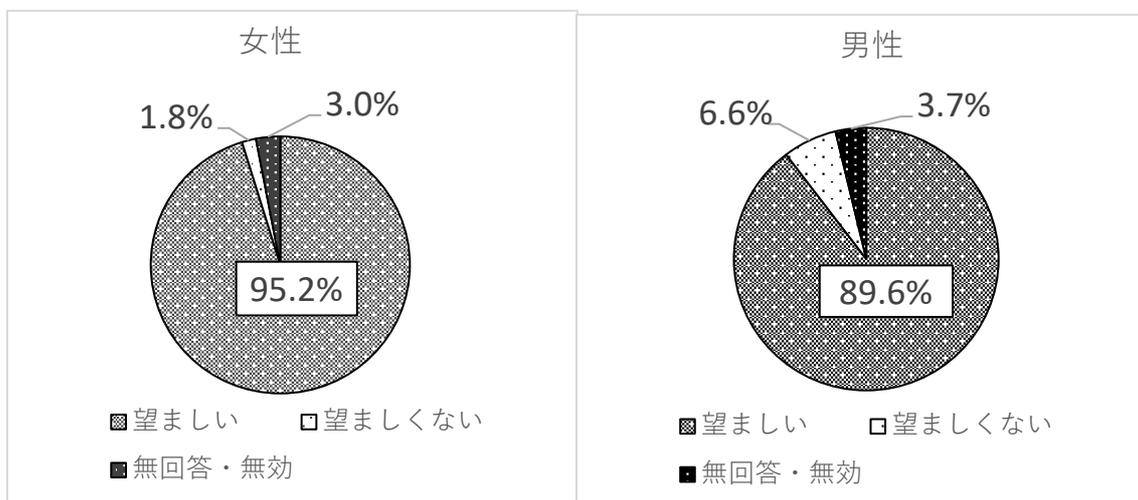
図 19-1 男性が家事、育児、介護等に主体的に参画することに対する意見 (n=1,083)



### 性別

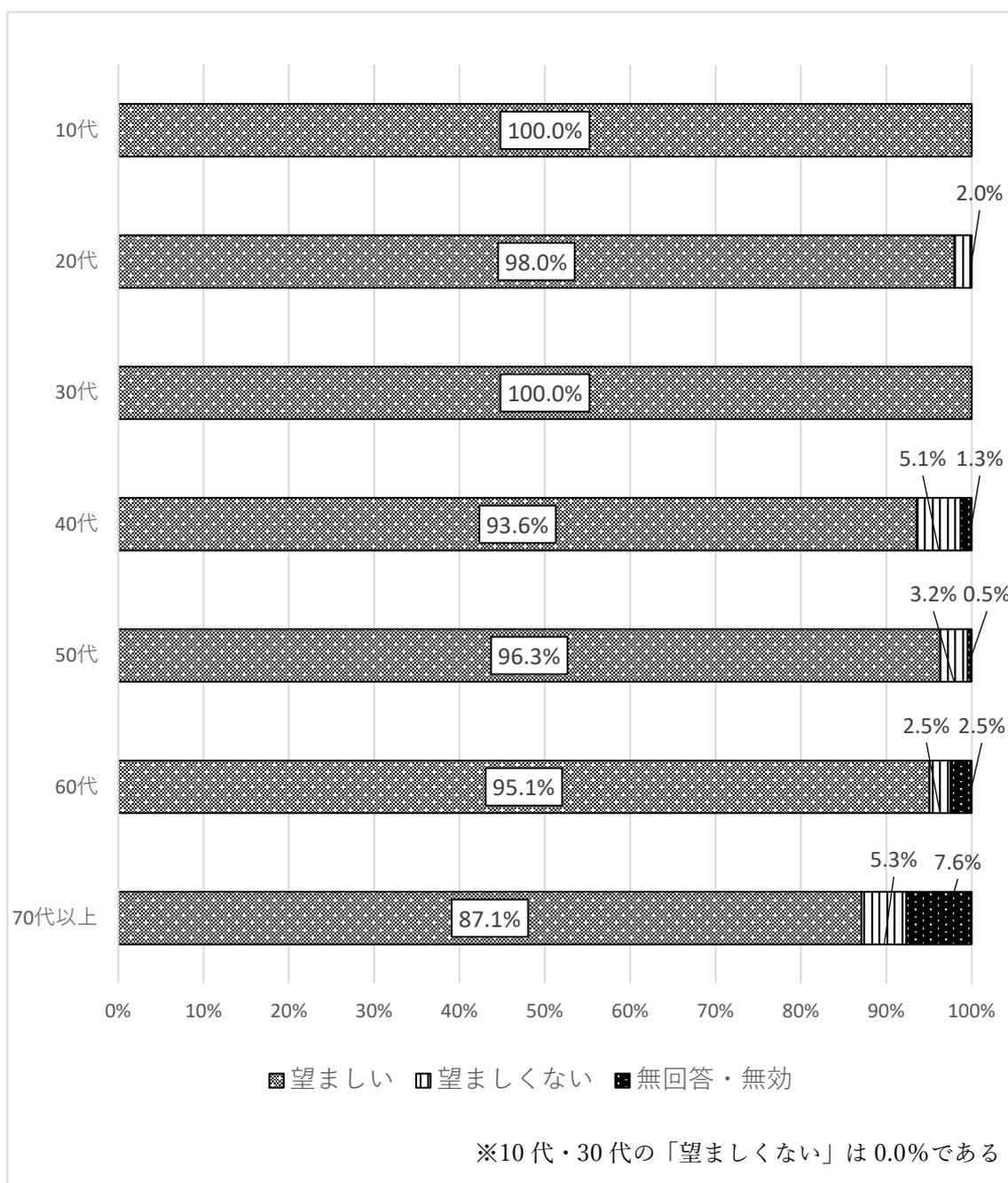
性別でみると、「望ましい」と答えた人は女性で 95.2% であるのに対し、男性は 89.6% となり、男性より女性の方が「望ましい」と回答する割合が高い結果となっている。

図 19-2 【性別】男性が家事、育児、介護等に主体的に参画することに対する意見 (女性 n=628, 男性 n=454)



年齢別にみると、10代～60代は「望ましい」と答えた割合が93.0%を超えている一方で、「70代以上」は87.1%と他年齢と比べて低い割合となっている。

図 19-3 【年齢別】男性が家事、育児、介護等に主体的に  
参画することに対する意見  
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,  
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)

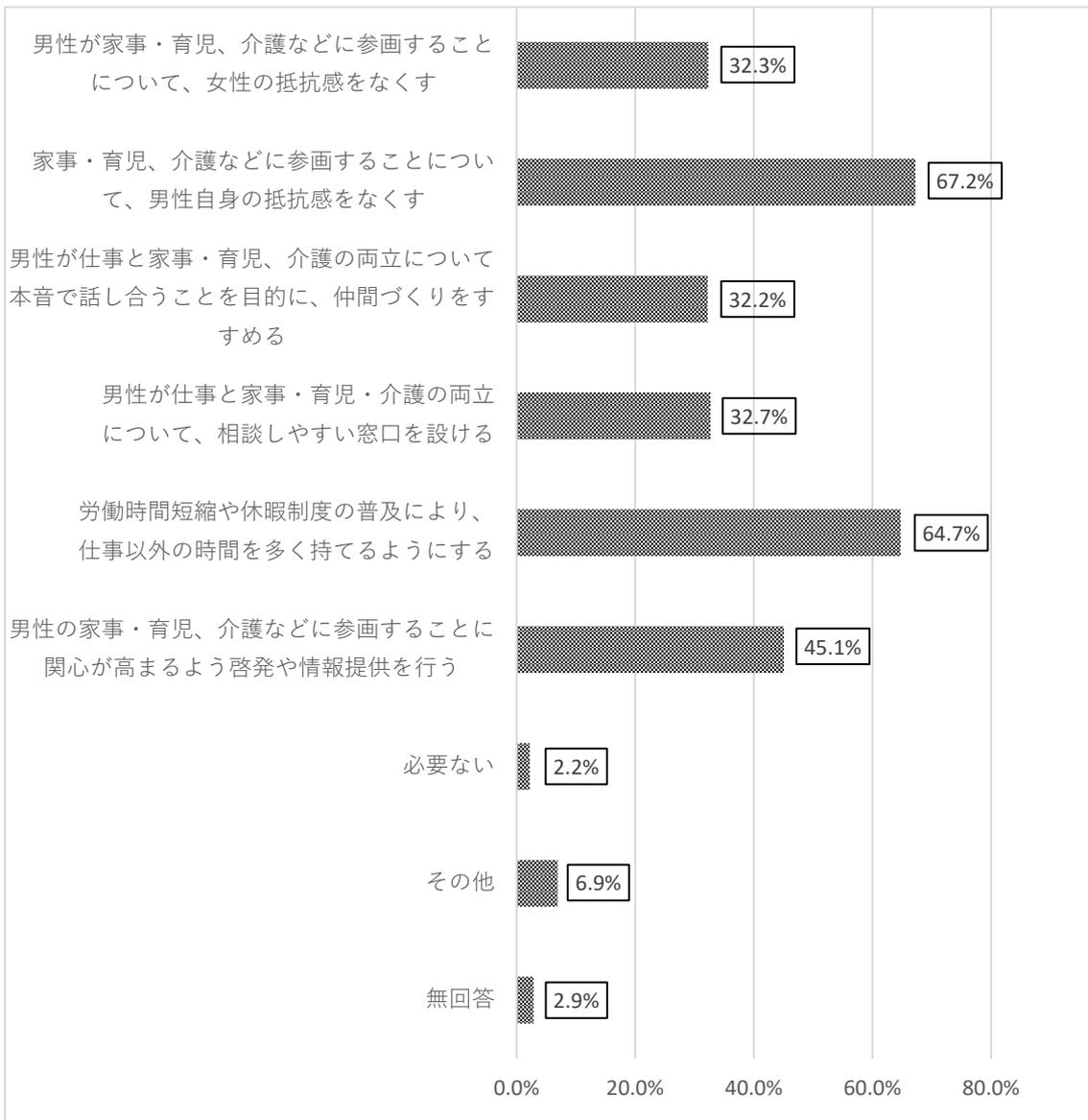


問19 あなたは、男性が家事、育児、介護等に主体的に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男性が家事、育児、介護等に主体的に参画するために必要なことを尋ねたところ、「家事・育児、介護などに参画することについて、男性自身の抵抗感をなくす」を選択した人が最も多く67.2%を占めている。

次いで、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が64.7%、「男性の家事・育児、介護などに参画することに関心が高まるよう啓発や情報提供を行う」が45.1%と続いている。

図20 男性が家事、育児、介護等に主体的に参画するために必要なこと (n=1,083)



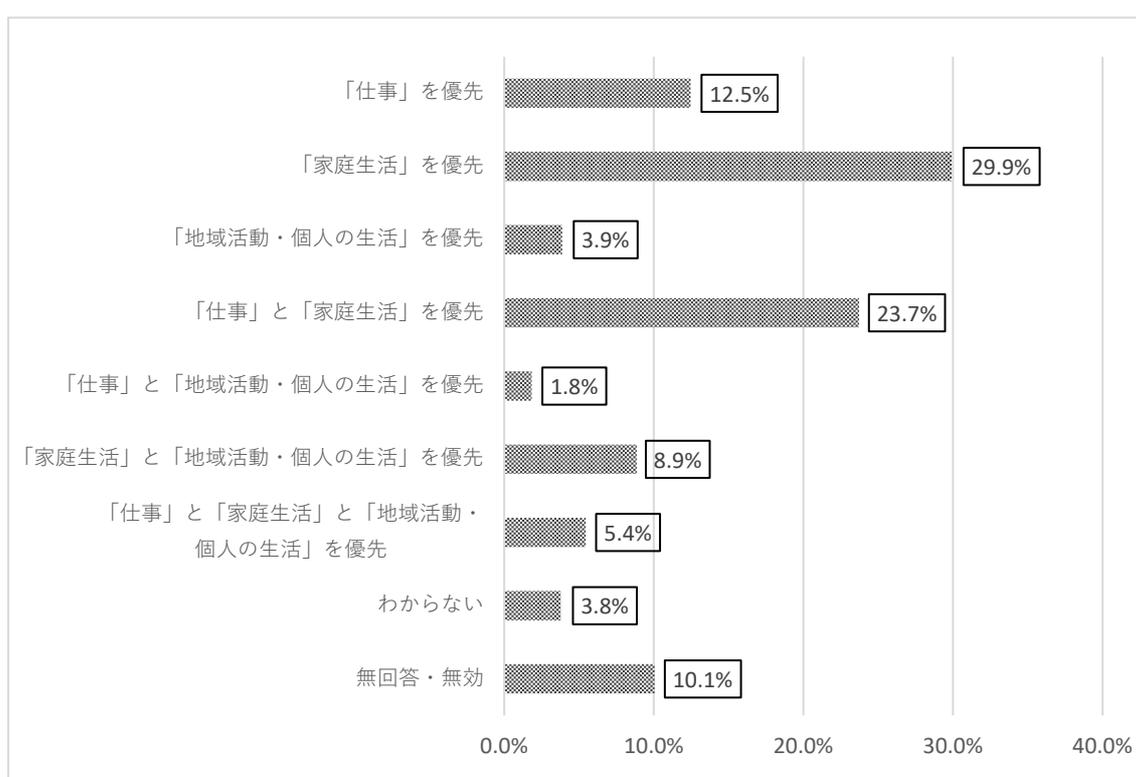
問 20-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）の優先度について、あなたの現実に一番近い選択肢はどれですか。（あてはまるもの1つに○）

「仕事」や「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、実際の生活に一番近いものを尋ねると、最も多かった項目は「家庭生活を優先」で 29.9%となっている。

次いで、「仕事と家庭生活を優先」23.7%、「仕事を優先」12.5%となっている。

前回調査でも同様の結果となっており、上位 3 項目に変化はみられない。

図 21-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」(n=1,083)



性別

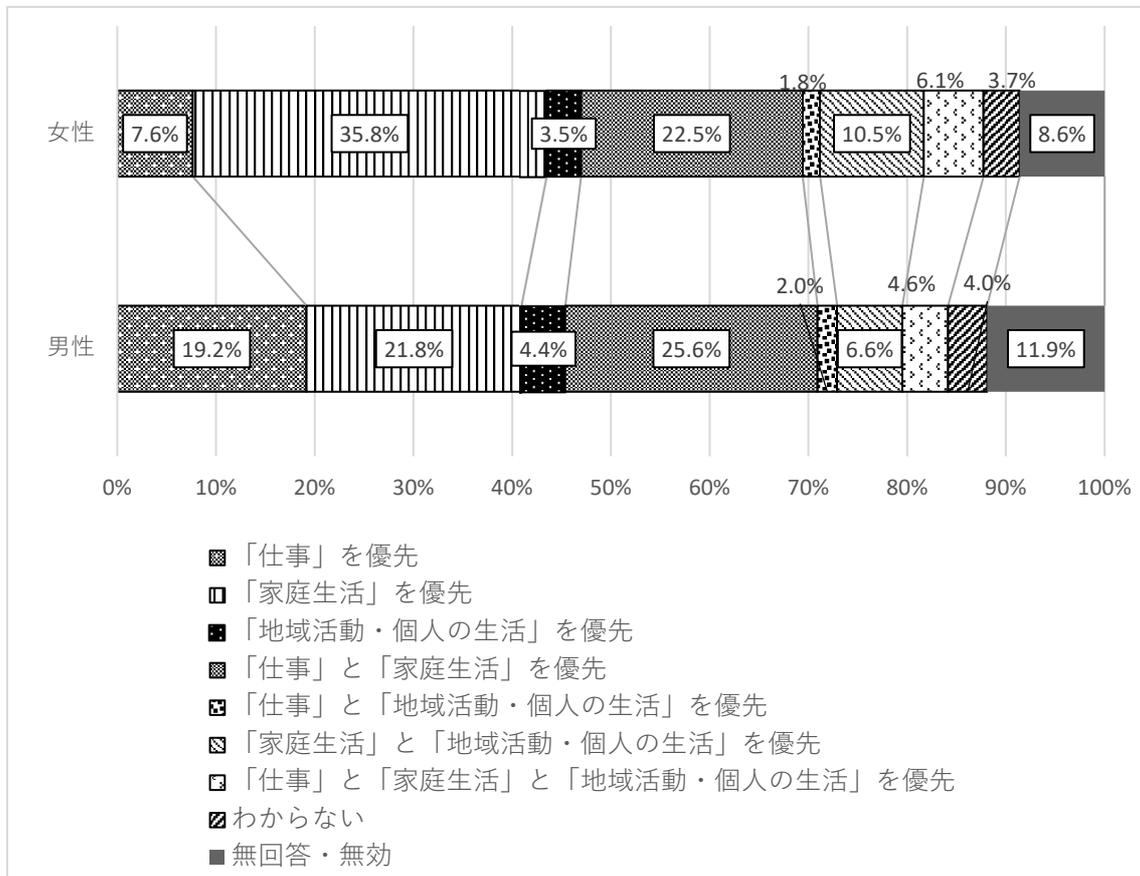
性別にみると、女性は多い順から「家庭生活を優先」35.8%、「仕事と家庭生活を優先」22.5%、「家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」10.5%と続いている。

男性は「仕事と家庭生活を優先」25.6%、「家庭生活を優先」21.8%、「仕事を優先」19.2%が上位 3 項目となっている。

前回調査と比較すると、女性の上位 2 項目には変化はないが、3 項目目は「仕事を優先」から「家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」に変化している。

男性は上位 1 項目には変化がないが、2 項目目と 3 項目目の順番が入れ替わり、「家庭生活を優先」が「仕事を優先」より多くなっている。男女共に「仕事」に関連する項目が減少した結果となっている。

図 21-2 【性別】仕事、家庭生活、地域・個人の生活の  
優先度「現実」(女性 n=628,男性 n=454)



### 年齢別

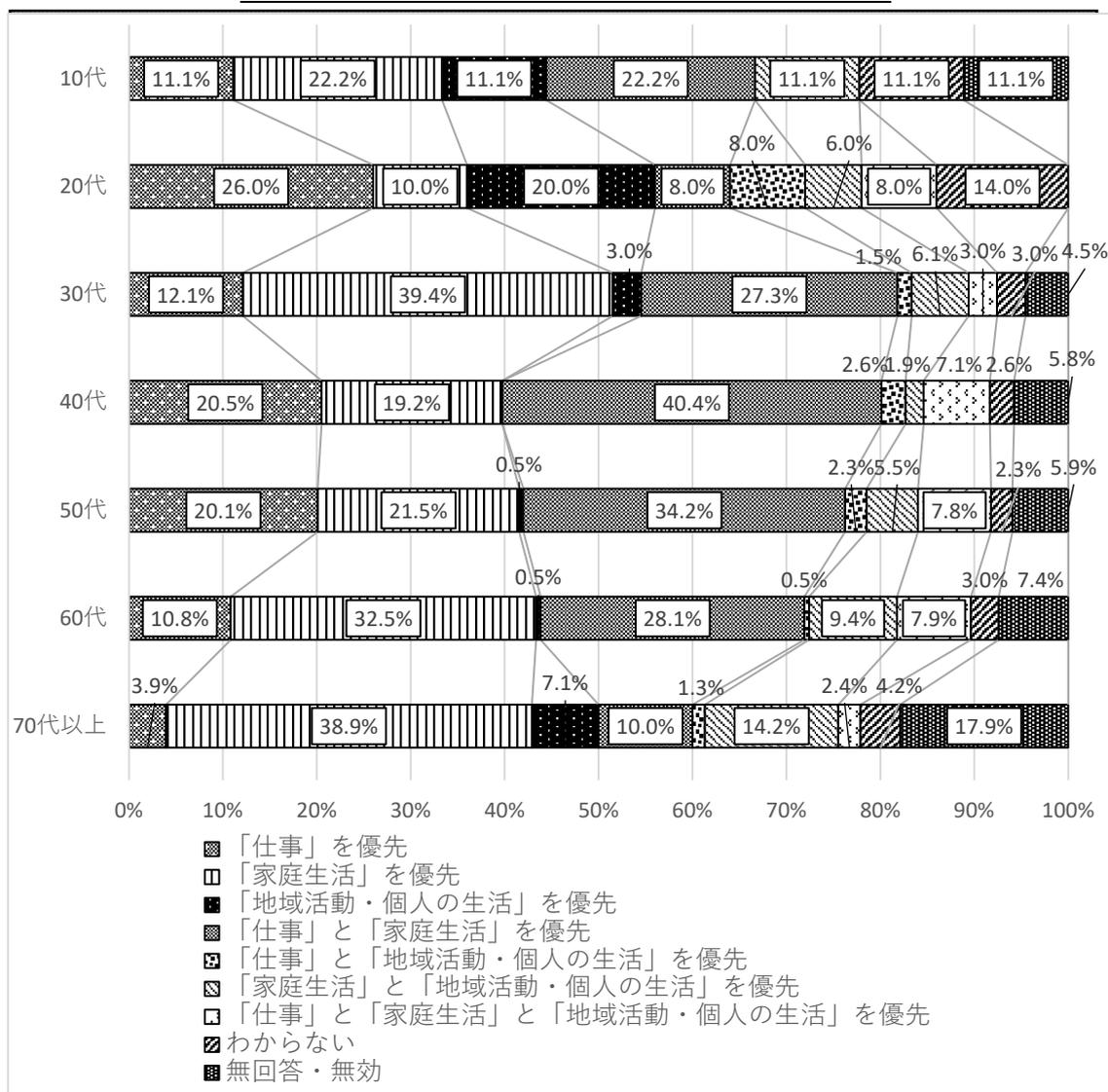
年齢別にみると、ほとんどの年齢層において、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」「仕事を優先」が上位 3 つを占めているが、「20 代」では「地域活動・個人の生活を優先」が 20.0%と 2 位に挙げられ、また「70 代以上」では「家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」が 14.2%と 3 位に挙げられている点が他年齢と異なっている。

また、「家庭生活を優先」は「30 代」が他年齢と比較して最も高く 39.4%となっている一方で、「20 代」は最も低く 10.0%にとどまっている。

「20 代」は「仕事を優先」の割合が 26.0%と他年齢と比較して最も高く、「20 代」の中で最も多い回答となっている。

図 21-3 【年齢別】仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,  
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



問 20-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味など)の優先度について、あなたの希望に一番近い選択肢はどれですか。(あてはまるもの1つに○)

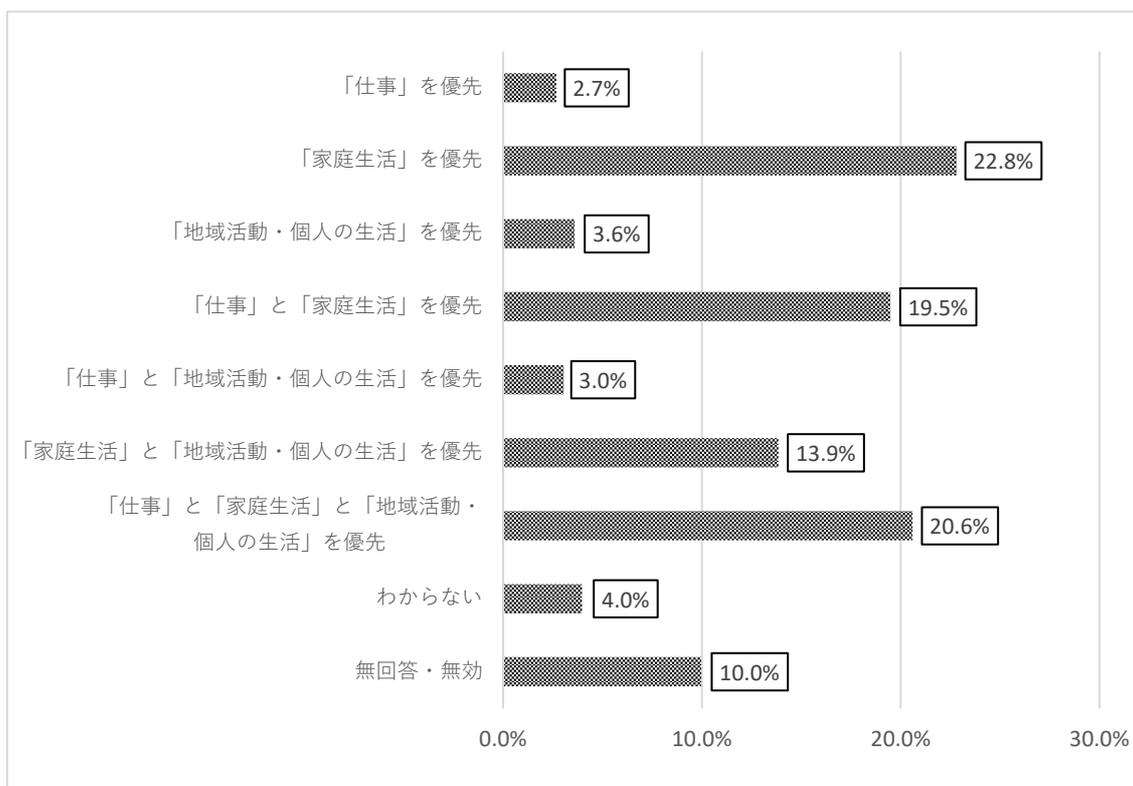
「仕事」や「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望の生活に一番近いものを尋ねると、最も多かった項目は「家庭生活を優先」で 22.8%となっている。

次いで、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」20.6%、「仕事と家庭生活を優先」19.5%となっている。

「仕事を優先」は実際の生活では 12.5%で上位 3 項目に入っていたが、希望では 2.7%に過ぎなかった。

前回調査では「仕事と家庭生活を優先」が最も多かったが、今回調査では「家庭生活を優先」が最も多くなり、上位 1 項目と 3 項目目が入り替わる結果となっている。

図 22-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」(n=1,083)



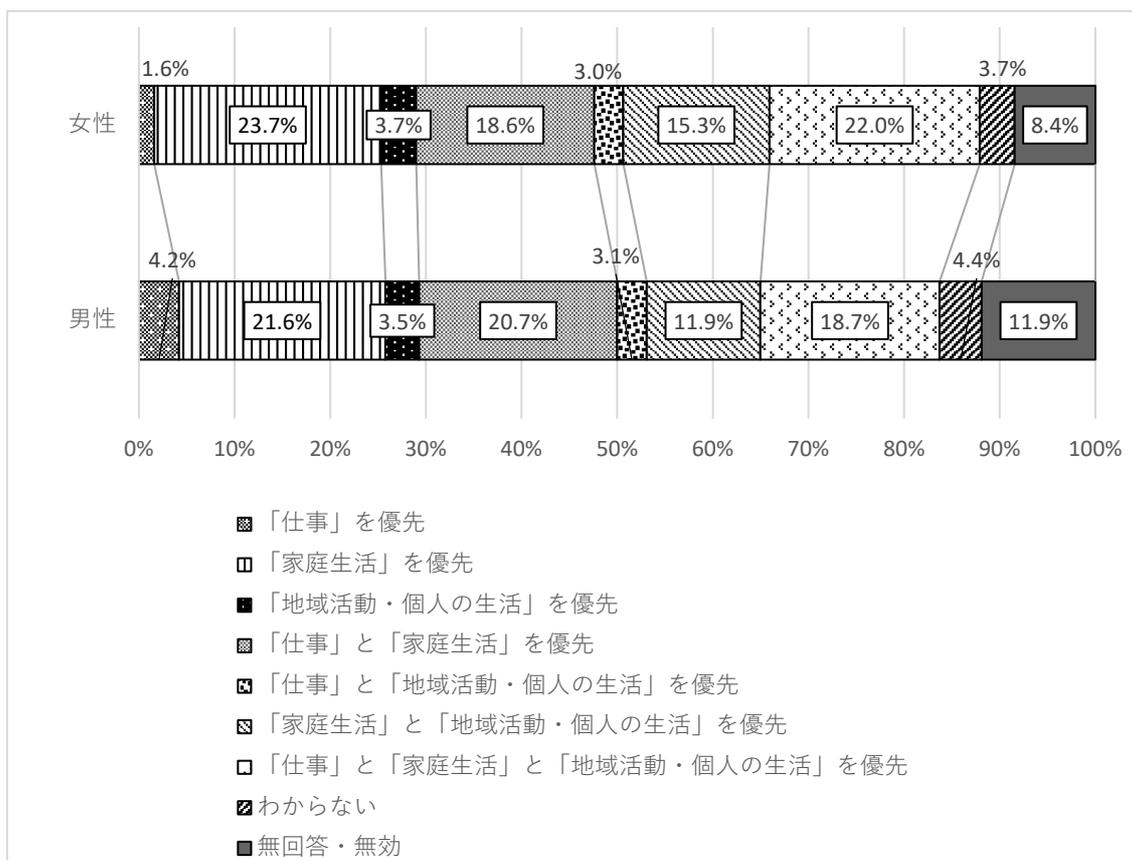
#### 性別

性別で見ると、女性は多い順から「家庭生活を優先」23.7%、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」22.0%、「仕事と家庭生活を優先」18.6%と続いている。

男性は「家庭生活を優先」21.6%、「仕事と家庭生活を優先」20.7%、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」18.7%が上位3項目となっている。

前回調査において男女共に最も多かったのは「仕事と家庭生活を優先」であったが、今回調査では「家庭生活を優先」が最も多くなっている。

優先度「希望」(女性 n=628,男性 n=454)



### 年齢別

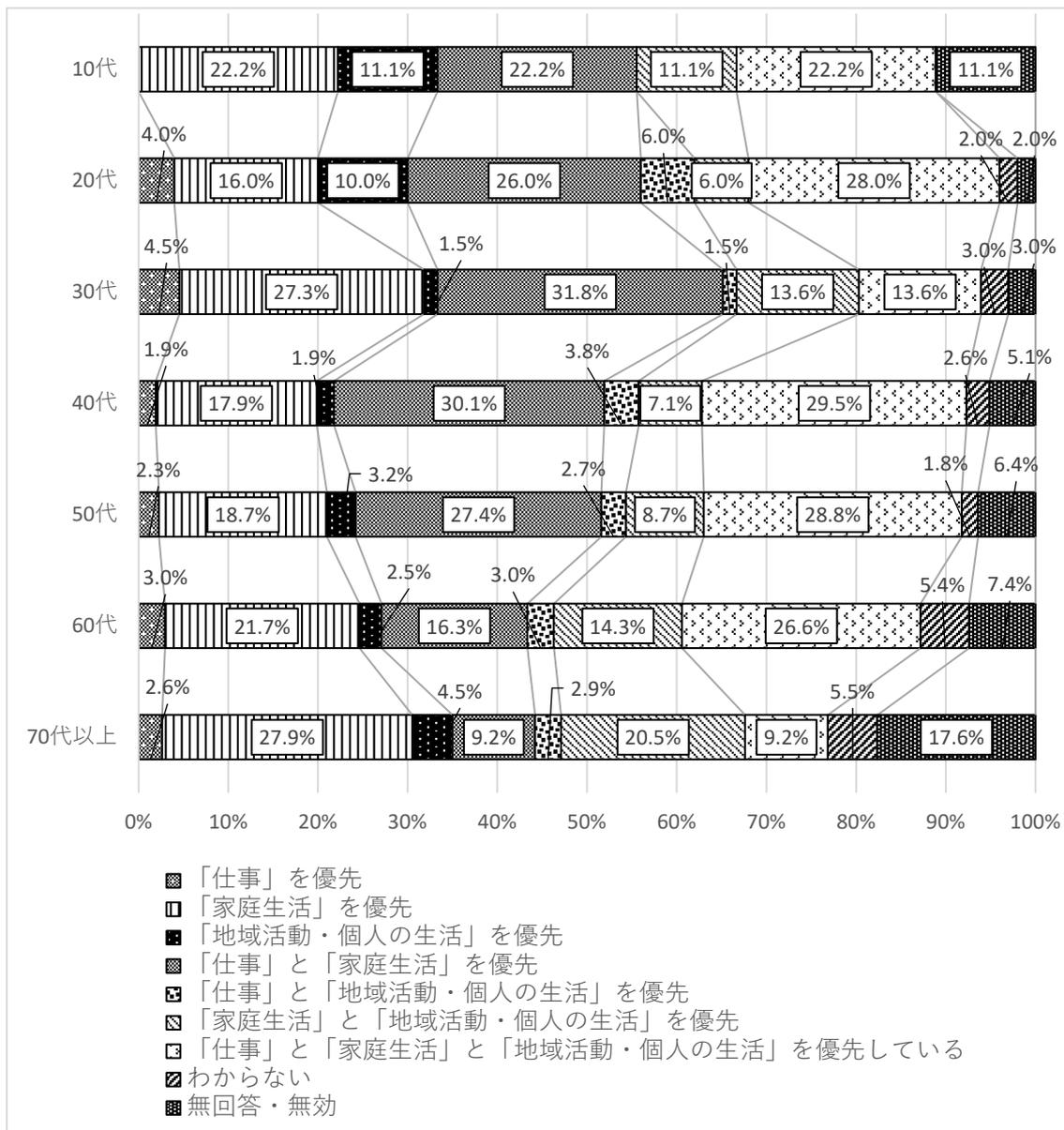
年齢別にみると、ほとんどの年齢層において、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」が上位 3 つを占めているが、「30 代」と「70 代以上」において、「家庭生活と地域活動・個人の生活を優先」がそれぞれ 3 位と 2 位に挙げられている点が他年齢と異なっている。

また、「家庭生活を優先」は「70 代以上」が他年齢に比べて最も高く、「仕事と家庭生活を優先」は「30 代」が最も高い結果となっている。

図 22-2 【性別】仕事、家庭生活、地域・個人の生活の

図 22-3 【年齢別】仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,  
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



【今回調査】

現実 表 8-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」(上位 3 つ)

	全体	女性	男性
①	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先
②	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先
③	「仕事」を優先	家庭生活と地域活動・ 個人の生活を優先	「仕事」を優先

希望 表 8-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」(上位 3 つ)

	全体	女性	男性
①	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先
②	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先
③	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先

【前回調査】

現実 表 9-1 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「現実」(上位 3 つ)

	全体	女性	男性
①	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先
②	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」を優先
③	「仕事」を優先	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先

希望 表 9-2 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度「希望」(上位 3 つ)

	全体	女性	男性
①	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先	「仕事」と 「家庭生活」を優先
②	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先	「仕事、家庭生活、地域活 動・個人の生活」を優先
③	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先	「家庭生活」を優先

## 9) 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望(自由記述)

男女共同参画社会の実現に向けて意見や要望を求めたところ、228人から回答が寄せられている。以下、主な意見を抜粋して記載する。

表 10 テーマ別自由記述の集計(n=228)

テーマ	人数
教育による啓発について	19
施策について	39
男女平等について	38
理想の社会や在り方について	13
性の多様性について	12
行政への提案・期待	47
調査に対する意見	16
その他	44
合計	228

### 1 教育による啓発について

男女共同参画社会の実現には教育による啓発が必要であると多く書かれている。特に、社会に出る前、幼少期からの教育が重要であることが述べられている。

また、男女共同参画を学ぶ機会のなかった年齢層が存在することから、学ぶ機会の提供を求める声が寄せられている。主な意見は以下のとおりである。

- ・男女共同参画社会の重要性について、幼少期から教育現場で啓発していく。
- ・中学校、高等学校などで、社会に出たときの仕組みやルールなどをしっかり教育する仕組みがあればよいと思う。年長者の方々の中にはまだまだ「男は仕事、女は家事、育児」という考え方が多いのが現実であるため、学びの場が必要だと思う。
- ・教育の中で男女平等を学ぶ場を作ってほしい。子どもの頃から男も女も同じことができるようにしてほしい。大人になって考え方を変えていくのは難しい。
- ・性別にとらわれず個々の特性や、やりたいこと好きな事が生かされ尊重されるような社会になってほしいです。大人になってから意識しても遅いように思うので、小さい頃から教育等により培われていくのが良いのかなと思います。
- ・知らないことが多い(世代的に学校教育で習わなかった)ので、教育、社会の場で拡充することが必要だと思う。
- ・子育て世代は、子どもが学校等で男女平等について学習する影響で、親も男女平等について学

ぶ機会がある。しかし、高齢者の方に関してそういった機会がないため、学ぶ機会を提供してほしい。

## 2 施策について

男女共同参画社会の実現に向けた施策について、環境づくりや組織変革の必要性など様々な視点から述べられている。また、性別ではなく個人の能力や希望を重視する声もみられる。

- ・難しい定義ですが最低限の生活ができる環境、社会を作らないと(土台と思うので)その先には進めないと思う。
- ・仕事をする上で男女平等である事は望ましいが、男性と女性は体力的、生理的に根本的に違いがあり、女性は出産に伴い大きなハンデがある。そこを押し上げるために、女性が働き続け、社会生活を問題なく送れるように、ある意味女性に有利な制度仕組みをもっと作るべきだと思います。産休、育休は当然、時短勤務リモートなど会社組織の中で自由な働き方ができれば働き続けられると思います。
- ・会社の協力が必要になると思う。
- ・男性がもっと家事を手伝えるような働き方改革ができればと思う。意識改革。
- ・自治会をもっと上手に活用できないかと。ただし、昔からの役員の方々の上から目線では無理だと。
- ・組織のトップや管理者が古い考えだと実現は難しい。仕事と家庭生活(育児、家事)の両方で長く経験を積み、男性と女性の両方の意見が分かる人を配置して、実現に向けて進めて欲しい。
- ・特に男女を意識せず、得意なものをお互いにすればよい。あまりにも男女を意識しすぎのように思う。
- ・男女についてはちょっとこだわり過ぎのように思えます。まずは、お互いの特性、違いを理解し、認め合う事から始まると思うので、そのような機会がたくさんあれば、と思います。最終的には男だから女だからというのではなく、個々の能力・希望を活かせればそれが一番だと思います。

## 3 男女平等について

家庭内における女性の負担や、政治家、管理職などの意思決定層に男性が多く占められていることへの指摘が述べられている。また、女性の社会進出だけでなく男性の職場環境の整備についても言及されている。

- ・共働きの家庭が増えている中、家事育児に対して女性の負担が多すぎると思う。男性は、家事は手伝っている意識が高い。そうではなくて、この家事は自分の仕事であることを認識すべき。
- ・子育てについて、学校等の集まりなど「母」が圧倒的に多いです。「父」が参加できるようになるときにしても良いと思います。
- ・若い世代は、性別役割観念は薄れてきていると思うが、国会議員や企業の管理職が年配の男性で占められている限り、男女共同参画は進まないのではないかと。
- ・古い考えをもった方々が権力をもっている現状が問題。子育てや家事を全くしてこなかった男性が

リーダーのままでは何も変わらないと思う。

・以前、民生委員をしたり自治会長をしていたが会議(大きな協議会、連合会)などは男性優位を感じ、発言がしにくい時があったり、取り上げられないなどあった。女性のリーダーをもっと増やすべき。

・女性が社会のあらゆる分野(以前は男性が大多数を占める職場)に進出することに注目が集まっている気がするが、女性が大多数を占めていた職場(保育士や幼稚園教諭など)に男性が働くことに対して、更衣室やトイレといった最低限の環境が整っていない施設が多いように思います。(宝塚は詳しく知らないですが…)女性が社会に!!も必要ですが、男性も女性と同等の職場環境や社会の意識(偏見等)が整っているのか、目を向けていく必要があると思います。

#### 4 理想の社会や在り方について

回答者の考える理想の社会や在り方が述べられている。中には、女性活躍や社会進出が叫ばれる時代の潮流の中で、多様な価値観の尊重を求める声もみられる。

・女性も育児、介護に関わり合いながら、社会活動が充分にできる社会になってほしい。

・子どもが生まれたとき、女性が仕事を続ける選択をしたのであれば社会、男女問わず協力できる世の中で、家庭においても家事、育児、介護を平等にしていかなければならないと思います。でも専業主婦(夫)を選択して一時的に子育て家事に専念する場合は、子育てが一段落したときに社会に復帰しやすいようにしたり、働いている方の保育所代が専業主婦手当になったりして、人それぞれ自由に選択できる世の中になるのが理想です。

・「男は仕事、女は家庭」という考えや状況を望み、幸福を感じることを否定しない社会でもあってほしい。家で子どもを育て、家事で家内を整えることは大変な「仕事」です。

・女性の活躍の場が増えることには賛成ですが、仕事ではなく家事や育児をしたい女性がいるのも事実だと思います。「女性はもっと働くべきだ」「男性はもっと家事育児をすべきだ」ではなく、それぞれがやりたいことをその希望どおりにできる社会が望ましいと思います。

#### 5 性の多様性について

性の多様性については、慎重な検討を求める声が挙がっている。一方で、性の多様性に配慮した名前を付けるといった声もみられる。

・性自認、性的指向の差別については慎重に進めてほしいです。性自認女性(身体男性)が女性スペースに侵入することは、身体女性への人権侵害です。統計を取る場合に性自認女性(身体男性)を「女性」として、くくる事はやめてもらいたいです。身体男性として享受してきた立場では、幼少期から身体女性が受けてきた差別や体の差など、全く理解できないと思います。性自認女性(身体男性)は男性の多様性として男性スペースで男性が受け入れるべきと考えます。

・性自認が女性であれば生物学的女性と全く同じ扱いで良いのかしっかりと考えていく必要がある

と思います。

・性別や男女平等ということはあまり私事ではなかったため、あまり意識せずに過ごしてきましたが、我が子の名前を考える際に、「もし子どもが性に関する悩みを人知れず持ったら」と思い至り、名前を考える際に男女どちらでも違和感がないような名前をつけることに決めました。このような考えに至ったのは、やはり私や夫の子どもの頃からの教育が大きいと思います。20年後、30年後、もし自分の子どもやその友人、私自身の友人からマイノリティな性だと打ち明けられた場合、その方々が今よりも少しでも生きやすい世の中になっていれば良いなと思います。

## 6 行政への提案・期待

行政への提案や期待の声が47件寄せられ、全てのテーマの中で最も多い結果となっている。中でも、相談窓口や活動内容などの情報発信に関して多くの意見が挙げられている。

- ・活動の内容を分かりやすく発信してほしい。だれでも参加しやすく、身近なところから取り組んでほしい。
- ・育児、家事、介護を誰に相談していいのかわからず、一人で悩んでいる人も多いと思う。企業内や宝塚市、内閣府が実施している相談窓口を知らない人がまだまだ存在すると思うので、もっとアプローチ、告知をした方が良く思う。
- ・宝塚市に、男女共同参画推進条例があること、各種相談窓口があることも今回の調査票で知った。必要としている人に届く情報発信や、利用しやすさがあれば良いなと思った。
- ・宝塚市がこのような活動をされていること、相談窓口があることなど、ほとんど知りませんでした。もっと発信に力を入れて広く知られること、そしてハードルを低くして相談しやすくなる環境を整えてほしいです。
- ・多様性が求められるこの時代、災害も多く起こったり、配慮を必要とする家庭や子ども、人など様々な問題が世の中を取り巻いているので、全ての人が自分らしく幸せに安心して暮らせるような制度や政策が作られたらいいなと思います。また、そんな所に税金を含め、お金を使ってもらえたらいいなと思います。
- ・男性も家事や育児をし、女性も社会進出するご時世というが、自治体がもっと施策を考えないと実現しない。最近で言えば豊中市の小学校の朝7時から開門などという施策がないと女性の社会進出は難しいと感じる。
- ・まず宝塚市は保育園料金の見直し、育児補助を実現させるべき。
- ・女性が社会に出ていくためには、そのための環境がまず必要です。現状では、保育園や学童保育の受入数が宝塚市においてもかなり不足しており、育児をしながら働くことは困難です。啓発や情報提供も結構ですが、それよりもまず女性が働きやすい環境を作る事に予算を使っていただきたいです。

## 7 調査に対する意見

問 4(男女の地位の平等感)について、「優遇」の意味合いや、解釈が人によって異なる可能性があり、回答しづらいという意見がみられる。また、一部、調査に対する批判的な意見も寄せられている。

- ・問 4 に関して「優遇されている」という表現が分かりにくい。「男性に負担がある」「女性に負担がある」なら答えられるのだが…。
- ・質問で使われている言葉の「優遇」の意味がわかりませんでした。例えば育児に関して、育児をしたい立場であれば、育児に大きく関与できる方が優遇されているとの回答になります。一方で育児を避けたいと思う立場からすれば、育児への関与が小さい方が優遇されるとの回答になります。他の質問の家事、介護も同じく、その方の認識で真逆の回答になるかと思い、回答をわからないとさせていただきました。
- ・問 4 の答え方が分からなかった。例えば「育児」は「育児の負担」の意味か「育児に関する環境や制度」の意味か分からなかった。私は前者で答えた。(「優遇」とは「楽しませてもらっている」との意味で答えた)
- ・人権平和・男女共同参画が掲げている事の多くは耳障りがいいのですが、現在までの活動等に恣意的なものを感じる。このアンケートも一方的に誘導される偏ったものであると強く感じた。今一度、平等とはどういうものか日本国民として考えてほしい。
- ・この設問は共同参画ができていない事を前提にした設問で非常に答えにくい。出来ていることを聞いていくような調査をした方が答えやすいと感じた。

## 8 その他

どのテーマにも分類されないが、重要な意見ではないかと考えられるものを以下に挙げる。

- ・調査に協力することで知らなかったことがあり、改めて考えていきたいです。
- ・数年前までは積極的に色々な活動に取り組んでいたが、体調を崩し 80 才という高齢にもなり、今は何もできなくなった。こんな状態でも外に目を向け、世の中の流れを肌で感じ、何か参加できるものがあれば、残る生に希望がもてるのではと思う。独力で外に出られず選挙にも行けない。こういう人多いのでは?参加することの意味は大きいと思う。
- ・フルタイムで働いていると地域の(市の)行政などに関わることがほとんどない。夫も仕事を辞めて家に居る時間が増えて初めて市政だよりなどをじっくり読んで、色々なサービスや行事があることを知ったようだ。
- ・仕事をしているときに、子どもの参観などに行きづらい。管理職になると特に職員を優先させがちになってしまう。自分の家庭を犠牲にすることも多いので、管理職に対する魅力をもっと出して女性が活躍すること、家庭を大切にすることも何とか両立したい。今必死に頑張っている。今から続く若い人たちのために希望を与えられるようになりたい。

## 男女共同参画に関する市民意識調査

～調査にご協力をお願いします～

市民の皆様には、日頃から市政に温かいご理解とご協力をいただきありがとうございます。  
宝塚市では、すべての人が性別にとらわれず、自分らしくいきいきと暮らせるまちをめざして、  
様々な取組を進めています。

このたび、施策を効果的に進める上での参考とさせていただくため、男女共同参画に関する市民の皆様のご意見をお伺いするアンケート調査を行わせていただきます。

この調査票は、18歳以上の市民の中から、無作為に3,000人の方を選んでお送りしています。  
無記名で、内容は統計的に数字として処理を行いますので、回答いただいた方のお名前や回答内容が特定されることはありません。

また、調査結果を他の目的に使用することはありませんので、率直なご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

※調査結果は、個人を特定することなくデータとして宝塚市ホームページで公表します。

令和6年（2024年）10月

宝塚市長 山崎 晴恵

### ☆調査票の回答についてのお願い☆

- ☆ 封筒のあて名の方が、ご自分のお考えをご回答ください。
- ☆ 調査票は、11月20日（水）までに同封の返信用封筒（切手はいりません）  
に入れて投函いただくか、二次元コードを読み込んでいただきご回答ください。



回答フォーム

☆☆この調査に関するお問い合わせ☆☆

宝塚市 総務部 人権平和・男女共同参画課

電話：0797-77-9100

FAX：0797-77-2171

e-mail：m-takarazuka0018@city.takarazuka.lg.jp

## 男女共同参画に関する市民意識調査 調査票

問1

統計上必要ですので、あなたの自認する性別をお聞かせください。

- 1) 女性                                      2) 男性                                      3) (                                      )

問2

あなたの年齢は次のうちどれですか。(令和6年(2024年)4月1日時点)

- 1) 18～19歳      2) 20～24歳      3) 25～29歳      4) 30～34歳      5) 35～39歳  
6) 40～44歳      7) 45～49歳      8) 50～54歳      9) 55～59歳      10) 60～64歳  
11) 65～69歳      12) 70～74歳      13) 75歳以上

問3

あなたの就業状況をお答えください。(令和6年(2024年)4月1日時点)(あてはまるもの1つに○)

- 1) 個人経営の事業を営んでいる自営業主または家族従業員  
2) 会社、団体、官公庁等に勤務している  
3) 勤務・就労していない      4) 学生      5) その他

2)とお答えされた方は、雇用形態についても、お答えください

- ①正社員    ②契約社員    ③派遣社員    ④アルバイト・パート    ⑤日雇労働者  
⑥経営者、役員、監査役    ⑦その他

○男女共同参画についておたずねします

男女共同参画とは？

男女共同参画とは、すべての人が性別にとらわれず、社会のあらゆる分野で参画する機会が保障され、個人として自分らしく生き生きと豊かな充実した生活をおくることができるとともに、責任を分かちあうことを言います。

問4

日常生活における次の項目で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。

各項目ごとにあてはまる番号を選んで○印をつけてください。

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
1) 育児	1	2	3	4	5	6
2) 家事	1	2	3	4	5	6
3) 介護	1	2	3	4	5	6
4) 職場	1	2	3	4	5	6
5) 学校園での教育	1	2	3	4	5	6
6) 地域活動 (自治会、ボランティアなど)	1	2	3	4	5	6
7) 政治	1	2	3	4	5	6
8) 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6

問5

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

- 1) 賛成
- 2) どちらかといえば賛成
- 3) どちらかといえば反対
- 4) 反対
- 5) どちらともいえない

問6

問5の回答について、それはどこで学んだり、教えられましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1) 親、家族などの近親者の影響
- 2) 友人や同僚の影響
- 3) 勉強や学習から
- 4) 学校、幼稚園、保育所などの先生の影響(習いごとなどの先生も含まれます)
- 5) メディア(本、雑誌、テレビ、インターネットなど)の影響
- 6) その他( )

問7

あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどのようなものなのか学んだり、教えられたりしたことがありますか。

- 1) はい
- 2) いいえ

★ジェンダーとは 社会通念や慣習の中で作り上げられた社会的・文化的性別のことです。
--

問8

問7で、「1) はい」を選んだ方にお聞きします。

それはどこで、学んだり、教えられましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1) 親、家族などの近親者の影響
- 2) 友人や同僚の影響
- 3) 勉強や学習から
- 4) 学校、幼稚園、保育所などの先生の影響(習いごとなどの先生も含まれます)
- 5) メディア(本、雑誌、テレビ、インターネットなど)の影響
- 6) その他( )

問9

あなたは、仕事もしくは家庭生活において、性別にとられない暮らし方をしていると思いますか。

- 1) している
- 2) していない
- 3) 特に意識したことがない







問20

仕事、家庭生活、地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）の優先度などについてお聞きします。

20-1 あなたの現実に一番近い選択肢はどれですか。（あてはまるもの1つに○）

- 1) 「仕事」を優先している
- 2) 「家庭生活」を優先している
- 3) 「地域活動・個人の生活」を優先している
- 4) 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5) 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している
- 6) 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している
- 7) 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している
- 8) わからない

20-2 あなたの希望に一番近い選択肢はどれですか。（あてはまるもの1つに○）

- 1) 「仕事」を優先している
- 2) 「家庭生活」を優先している
- 3) 「地域活動・個人の生活」を優先している
- 4) 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5) 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している
- 6) 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している
- 7) 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している
- 8) わからない

○男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望があれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。